

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第51回）

日時：2023年10月20日（金）13：00～15：40

場所：オンライン

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・田嶋一・藤井佳世 各兼任研究員
鈴木悦子・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：仲田康一・山口和人所長・金沢千秋

内容：（1）藤井研究員：「公共圏の新たな構造転換について考える」

1. 見知らぬ人々による交流としての公共圏
 - ・セネットによる、18世紀の都市とパブリック（公共）の関係
 - ・ヴルフによる、18世紀末の人間と社会の関係
2. 公共圏の新たな構造転換と熟議政治
 - ・ニューメディアによる新しいコミュニケーション形態と公共圏の構造変化
 - ・デジタル社会は、距離を考慮することなく民主的な公共圏に参加できる
 - ・メディアの空間は半公共圏である
3. 分断する社会において、なおもハーバーマスの論じる公共圏は意義を持つのか
 - ・ハーバーマスの論じる公共圏は、分断した社会で組織的に損なわれている
 - ・ハーバーマスのコミュニケーション的行為の三つの妥当要求

（2）浅井研究員：「公教育のイノベーション『共通世界』の概念を手がかりに」
はじめに

- ・ユネスコ報告書「私たちの未来をともに再構想する」（UNESCO 2021）のバックグラウンドペーパー「世界とともに生成するための学習」の議論を検討することによって、公教育のイノベーションを探求する
1. 私たちの未来を再構想する
 - ・ユネスコの報告書「私たちの未来をともに再構想する」の目的
 - ・私たちの共通世界と共有する未来を形作るために、教育がどのような役割を果たすことができるか
 - ・ユネスコ報告書「教育を再考する：グローバルなコモングッドに向けて」（UNESCO 2015）の四つの項目。「持続可能な開発」「人間主義アプローチの再確認」「複雑な世界における教育政策の決定」「コモングッドとしての教育」

・次回研究会 11月24日（金）13：30～